

1月	1	200~300	6
2月	3	300~500	10
5月	4	500~1,000	2
8月	2	1,000名以上	7
9月	1	7. 参加費	
春	1	不要	24
夏	5	500円	5
秋	1	1,000円	6
年1回	14	1,000~5,000円	13
年2回	11	5,000~10,000円	7
年5~6回	4	10,000~20,000円	9
2~3年に1回	3	20,000~30,000円	6
月1回	2	30,000~50,000円	4
5. 期間		50,000円以上	1
1日間	62	必要	6
2日間	5	不定	1
3日間	1	8. 申込	
4日間	2		
5日間	1		
2週間	1		
6. 定員			
なし	18		
50名以下	7	登録制	2
50~100名	21	手続不要	19
100~200	13		(白書担当 畑尾正彦)
		当日申込	10
		学会事務局に申込	10
		申込手続必要 59	
		開催者に申込	18
		申込用紙送付	14
		告示による申込	7

資料13：国内医学教育ワークショップ

日本医学教育学会

わが国における医学教育ワークショップは、昭和49年12月14~21日に開催された第1回医学教育者のためのワークショップ以来今日まで数多く、いろいろな規模で行われている。これらの多くはWHO方式によるteacher trainingを目的としたものであるが、単にteacher trainingに止まらず、自分の機関の医学・医療教育に関する問題を解決するためのワークショップも企画されるようになってきている。

前回の医学教育白書1982年版に1981年中間までのワークショップがまとめられている¹⁾が、ここでは1981年1月より1985年12月末までを、アンケート調査を中心に年度ごとに集計した。

医学教育に関するワークショップ(WS)の集会形式

としては、従来の講演会(L)、パネル・ディスカッション(PD)で行われたものもアンケートで返信していただいた教育に関するものはこの集計に含め、それぞれの形式を付記した。

この集計のためのアンケート調査にご協力いただいた下記の各施設に感謝する。なお、アンケート調査の詳細については「医学教育」に掲載を計画中である。

旭川医大、北大医学部、札幌医大、弘前大医学部、秋田大医学部、東北大医学部、新潟大医学部、筑波大医学部専門学群、自治医大、群馬大医学部、独協医大、防衛医科大学校、日本大医学部、慈恵医大、昭和医大、慶應大医学部、東京女子医大、杏林大医学部、聖マリアンナ医大、東海大医学部、山梨医大、金沢大医学部、金沢

表 1 全国医学教育者のためのワークショップ

回	主 催	期 日	後援・協力	テ ー マ	参加人数
9	厚生省 文部省	1982. 12. 12~17	{ 日本医学教育学会 医学教育振興財団 WHO	カリキュラム・プランニング	40
10	厚生省 文部省	1983. 12. 11~16	{ 日本医学教育学会 医学教育振興財団 WHO	組織としての教育機能の開発	40
11	厚生省 文部省	1984. 12. 2~ 7	{ 日本医学教育学会 医学教育振興財団	組織としての教育機能の開発	40
12	厚生省 文部省	1985. 12. 8~13	{ 日本医学教育学会 医学教育振興財団	組織としての教育機能の開発 —医学教育における問題点と その解決法	40

表 2 日本医学教育学会主催のワークショップ

主 催	期 日	期 間	テ ー マ	参加人数
WS 係	1981. 7. 4	1 日	ワークショップ開催のためのワークショップ	31 ²⁾
WS 係	1982. 7. 31	1 日	より良い客観試験をめざして	28 ³⁾
教育技法委員会	1982. 11. 22~23	1 泊 2 日	視聴覚教育技法	20 ⁴⁾
教育技法委員会	1984. 2. 18~19	1 泊 2 日	教育技法：ビデオの利用	21 ⁵⁾
生涯教育委員会	1984. 8. 25~26	1 泊 2 日	PC のための生涯教育の計画	23 ⁶⁾
卒後臨床委員会	1985. 2. 15~16	1 泊 2 日	医師のマナー教育	36 ⁷⁾
教育技法委員会	1985. 8. 2~ 3	1 泊 2 日	マイクロティーチング	28

医大、浜松医大、愛知医大、三重大医学部、奈良医大、和歌山医大、富山医薬大、福井医大、岐阜大医学部、鳥取大医学部、大阪医大、関西医大、神戸大医学部、兵庫医大、岡山大医学部、島根医大、愛媛大医学部、高知医大、香川医大、九大医学部、福岡大医学部、産業医大、大分医大、久留米大医学部、熊本大医学部、長崎大医学部、鹿児島大医学部、琉球大医学部（計50大学）

1. 医学教育者のためのワークショップ（表1）

全国規模の teacher training ワークショップとして、富士教育研修所で行われてきた第1回(1974年)から第9回(1982年)までのテーマは、WHO方式の「カリキュラム・プランニング」を中心としたものであったが、第10回(1983年)からは「組織としての教育機能の開発(Faculty Development)」とテーマを変えた。これではプログラム、個人のみならず、よりよい教育のために組織をいっそう発展させる方策を見出すことに主眼をおいている。

2. 学会主催ワークショップ（表2）

特定のテーマについて集中的に討議を重ね、あるいは

研修するワークショップが1日ないし1泊2日で行われ、それぞれ成果が得られている。詳細は文献で参照されたい。²⁻⁷⁾

3. 各大学、研修病院におけるワークショップ(表3)

1975年より1981年末までの7年間で全国21大学、5研修病院で医学教育ワークショップが行われた。1982年より1985年の4年間では18大学、2研修病院で同様に半日～4日間のワークショップが合計44回開催された。この集計には講演会・シンポジウム形式の会合も含めたが、44のうち37会合(84%)はWS形式で行っていた。

一方、いわゆるWHO方式のteacher trainingワークショップのみではなく、各自の大学・病院での問題を解決するためのワークショップも行われるようになってきた。今後の調査では、ワークショップの目的がteacher trainingと問題解決のどちらにあるのかをはっきりさせる必要がある。

(涉外(国内)担当 田中 勸)

表3 大学・病院主催のワークショップ

期 日	期 間	大学・病院名	テ ー マ	形 式	参加者数
1981年					
7. 22~23	2日	佐賀医科大学	第2回 WS: 教育評価: その目的と方法	W	111
7. 23~25	2泊3日	久留米大学医学部	第4回 WS: よい実習内容の立案 よい試験問題のつくり方	W	48
7. 29~ 8. 1	3泊4日	兵庫医科大学	第2回 WS: カリキュラム・プランニング	W	25
8. 1~ 2	1泊2日	帝京大学医学部	帝京大学医学部教育のためのワークショップ	W	49
8. 21~23	2泊3日	自治医科大学	第4回: WHO 方式によるカリキュラム 作成の実際	W	23
8. 31~ 9. 1	1泊2日	順天堂大学医学部	第7回: カリキュラム・プランニング	W	24
9. 5~ 6	1泊2日	鳥取大学医学部	第1回: 教育評価	W	26
11. 11~12	1泊2日	福岡大学医学部	第5回: カリキュラム改正作業について	W	58
1982年					
7. 5, 19	2日	自治医科大学	第1回問題解決 WS: 基礎臨床系統講義 の改善	W	19
7. 23~24	2日	愛知医科大学	第1回: 医学教育の原理と進め方	W	31
7. 28~31	3泊4日	兵庫医科大学	第3回: カリキュラム・プランニング	W	23
7. 28~29	2日	鳥取大学医学部	第2回: 1. 医進課程と専門課程での インテグレーション 2. 面接法	W	28
8. 5~ 6	2日午後	東京慈恵会医科大学	1. 日本における医学教育カリキュラム の現状と慈恵医大のカリキュラムの 問題点 2. 臨床実習の在り方の検討およびその 方略 3. 教育評価の現状と問題点 4. 外科系カリキュラム編成の問題点	PD	19+ α
8. 19~21	2泊3日	自治医科大学	第5回: WHO 方式によるカリキュラム 作成の実際	W	22
8. 19~21	2泊3日	久留米大学医学部	第5回: カリキュラムブックの再評価 (具体的学習目標: 方略を考える)	W	59
11. 10~11	1泊2日	福岡大学医学部	第6回: 新カリキュラム(案)について	W	56
1983年					
1. 7, 8	2日	筑波大学医学専門学 群	高等学校学習指導要領の改訂に伴う昭和 60年度以降の入学者に対するカリキュ ラムの対応に関するワークショップ	W	
2. 12~13	1泊2日	琉球大学医学部	第1回: 包括的医学教育のカリキュラム の作成	W	18
7. 26~27	2日午後	東京慈恵会医科大学	第2回: 1. 基礎医学と臨床医学の関連 2. teacher training 3. 卒前教育の到達目標	PD	22+ α
7. 4夜, 11夜	2夜	自治医科大学	第2回問題解決 WS: 臨床教育技法 (CAZ の導入)	W	12+ α
7. 26~29	3泊4日	兵庫医科大学	第4回: カリキュラム・プランニング	W	14
7. 29~31	2泊3日	関西医科大学	第1回: 関西医科大学における医学教育	W	29
8. 4~ 6	2泊3日	久留米大学医学部	第6回: 1. 臨床学年のカリキュラム (特に問題解決を助長する教 育および学習法の検討と立 案) 2. 本学において可能な器官別 あるいは疾病別総合カリキ ュラムの検討と立案	W	53
8. 17~18	2日	防衛医科大学校	第3回: カリキュラム・プランニング, 教育評価	W	19

表 3 つづき

期 日	期 間	大学・病院名	テ ー マ	形 式	参加者数
8. 25~27	2泊3日	自治医科大学	第6回研修会：人間性教育に基づくカリキュラム作成の実際	W	19
9. 2~3	2日	愛知医科大学	第2回：カリキュラムの作成	W	31
11. 9~10	1泊2日	福岡大学医学部	第7回：1. 新しい教育法と教育材料，設備—視聴覚教育・他 2. SGTの現況，解析ならびに今後の対策—評価方法，期間，選択制・他 3. 新カリキュラム第6年次の教育—基本計画，卒業試験・他 4. 新カリキュラムの現況とその反省—M1~M3前期 5. Integrate教育の評価方法—各部門一定基準，コーディネーターと講義者の関係・他	W	64
1984年					
1. 14~16	2泊3日	聖マリアンナ医科大学	第2回：1. カリキュラム・プランニング 2. 評価	W	38
2. 10	1日	筑波大学医学専門学群	高等学校学習指導要領の改訂に伴う昭和60年度以降の入学者に対するカリキュラムの対応に関するワークショップ	W	
7. 9夜，16夜	2夜	自治医科大学	第3回問題解決型 WS：人間生物学の改善	WS	18
7. 25~26	1泊2日	東京慈恵会医科大学	第3回：カリキュラム特別検討会 1. 講義における各科の連携 2. 本校における学習評価を考える 3. 臨床指向の基礎医学教育 4. 前期・後期臨床実習の一本化	W + 討論会	30+ α
8. 3~5	2泊3日	関西医科大学	第2回：関西医科大学における医学教育	W	25
8. 10~11	2日	愛知医科大学	第3回：カリキュラムの作成	W	32
8. 17~18	1泊2日	産業医科大学	医学概論を考える	W	15
8. 23~25	2泊3日	自治医科大学	カリキュラム作成の実際	W	19
8. 25~26	1泊2日	兵庫医科大学	第5回：1. 本学カリキュラム改訂マスタープラン 2. 進学・基礎・臨床3系間，系内におけるカリキュラムの統合 3. 試験・評価のあり方	W	21
8. 31夕	1夕	昭和大学医学部	多肢選択問題の作成方法・評価について	L	50+ α
10. 8~9	2日	防衛医科大学校	第4回：カリキュラム・プランニングと評価方法	W	22
11. 21夕	1夕	昭和大学医学部	多肢選択問題の作成方法・評価について	L	50+ α
11. 21~22	1泊2日	福岡大学医学部	第8回： 1. 新しい教育方法と教育材料，設備，視聴覚教材の利用方法 2. S.G.T.の現況，解析ならびに今後の対策，評価方法，期間，選択制・他 3. M6 S.G.T. 終了後の教育と卒業試験 4. M5 S.G.T. 開始前の教育 5. M1~M3 前期の教育	W	61
12. 13~15	2泊3日	東邦大学医学部	教授方法	W	51
1985年					
1. 18~20	2泊3日	聖マリアンナ医科大学	第3回：1. カリキュラム・プランニングと評価 2. Instructional design	W	36

表3 つづき

期 日	期 間	大学・病院名	テ ー マ	形 式	参加者数
2. 12	1 日	筑波大学医学専門学 群	高等学校学習指導要領の改訂に伴う一般 教育カリキュラムと専門教育カリキュラ ムの効果的統合に関するワークショップ	W	
7. 23~24	1泊2日	東京慈恵会医科大学	第4回：教授学習法	W	22
7. 31~ 8. 3	3泊4日	兵庫医科大学	第6回：カリキュラム・プランニング	W	14
8. 1夕	1夕	昭和大学医学部	第3回：多肢選択問題の作成方法・評価 について	L	50+α
8. 1~ 2	2日	愛知医科大学	第4回：1. 学習評価 2. 医学教育におけるCAI利用 3. 医学教育のインテグレーション	W	26
8. 1~ 3	2泊3日	関西医科大学	第3回：関西医科大学における医学教育	W	14
8. 8~10	2泊3日	久留米大学医学部	第7回：1. 試験評価の目的と方法 2. 基礎医学教育から臨床医学 教育への効果的移行 3. 教養課程における教育のあ り方 4. BSL における問題点解決法 5. 勉強に積極性のない学生の 指導法	W	69
8. 22~24	2泊3日	自治医科大学	カリキュラム作成の実際		21
9. 13午後	1日午後	東北大学医学部, 医 学教育振興財団	1. 入学選抜方法の改善について 2. 医学教育の特質に応じた教育方法の 改善について	シンポジ ウム	50
9. 22~23	1泊2日	杏林大学医学部	第1回：カリキュラム・プランニング	W	38
10. 8~ 9	2日	防衛医科大学校	第5回：統合カリキュラム	W	31
11. 13~14	1泊2日	福岡大学医学部	第8回： 1. 新しい教育方法と教育材料, 設備, 視聴覚教材の利用方法について 2. 医進課程教育の検討, それに関連 したカリキュラムについて 3. M3~M4 の教育, 修業年限につ いて 4. M5 S. G. T. 開始前の教育, 並 びに S. G. T. 及びその評価につ いて 5. M6 S. G. T. 終了後の教育と卒 業試験について	W	66
12. 2	1日	自治医科大学	第4回問題解決 WS：総合講義の改善	W	11
12. 2夕	1夕	昭和大学医学部	第4回：多肢選択問題の作成方法・評価 について	L	50+α
12. 4夕	1夕	日本大学医学部	1. アメリカの医学教育視察とくに GPEP Report について 2. 富士医学教育ワークショップ参加報 告	L	48
1981年					
8. 8~11	4泊4日	国立長崎中央病院	地域医療計画	W	
9. 12~13	1泊2日	神戸市立中央病院	第1回：研修医のニーズ分析 教育カリキュラムの作成	W	
9. 23	1日	帝京大学医学部附属 病院	保険診療請求・査定現状と対策	W	
1982年					
9. 16	1日	国立横須賀病院	臨床実習指導者	W	
1984年					
11. 22~23	1泊2日	神戸市立中央病院	第2回：研修医指導のためのワークショ ップ	W	

参考文献

- 1) 牛場大蔵：ティーチャー・トレーニングのためのワークショップ. 医学教育白書, 1982年版, p.57, 1982.
 - 2) 田中 勸・他：ワークショップ開催のためのワークショップ. 医学教育, **12**: 398, 1981.
 - 3) 堀 原一・他：ワークショップ“より良い客観試験をめざして” 報告. 医学教育, **13**: 264, 1982.
 - 4) 林 茂・他：「視聴覚教育技法をめぐる研究会」報告. 医学教育, **14**: 209, 1983.
 - 5) 林 茂・他：教育技法ミニワークショップ報告. 医学教育, **16**: 77, 1985.
 - 6) 岩淵 勉・他：医師の生涯教育ワークショップ報告. 医学教育, **16**: 363, 1985.
 - 7) 福間誠之・他：「医師のマナー教育」ワークショップ報告. 医学教育, **16**: 431, 1985.
-